

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【地震一口メモ】

長期評価による地震発生確率値の更新について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため1989年1月より月1回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

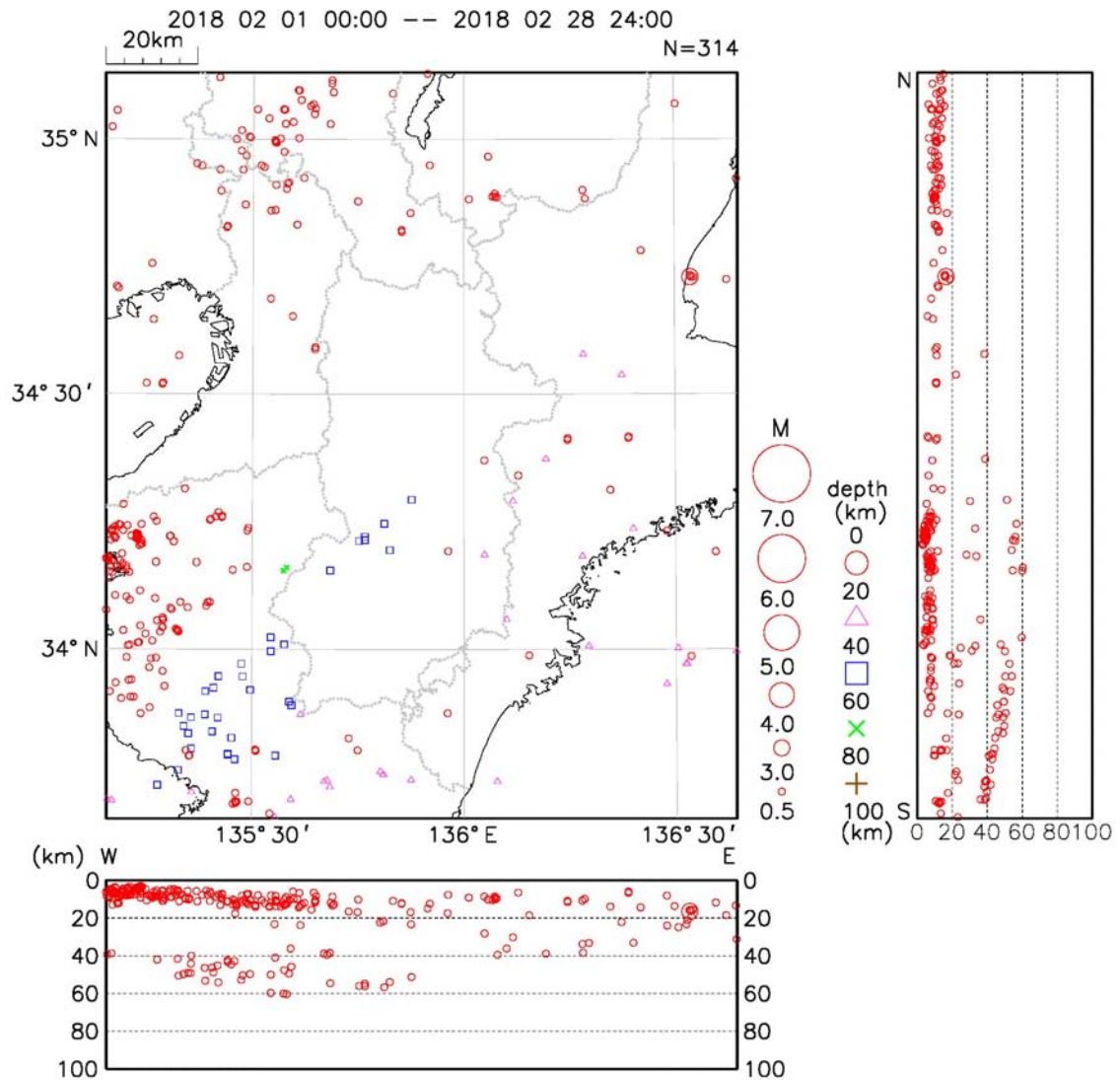
※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台
2018年2月

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

地図範囲内に分布している震央の南北方向の断面図(右上)と、東西方向の断面図(左下)で、地震の垂直分布を表しています。これにより、マグニチュード(M)の大きさと深さによる地震発生状況が把握しやすくなります。



【奈良県地震概況】

奈良県内で2月に震度1以上を観測した地震はありませんでした。

【地震一口メモ】

～長期評価による地震発生確率値の更新について～

地震調査研究推進本部地震調査委員会は、前回（2017年1月1日）から1年経過したことから、新たに『平成30年（2018年）1月1日を基準日として算定した地震の発生確率値』を公表しました。

本紙では、これらの公表資料から、奈良県に大きく影響をもたらすことが考えられる活断層（表1）および南海トラフの地震（表2）を抜粋し掲載します。前回と比較すると、中央構造線断層帯は昨年再評価が行なわれたため全体的に見直されました（本紙1月号参照）。南海トラフの地震では、10年と30年以内の発生確率及び経過率に変更されています。

また、その他の活断層等の資料やより詳細な事項は、地震調査研究推進本部のホームページ（<http://www.jishin.go.jp/>）でご覧になれます。

これらの資料は、地震の危険性を再認識し防災意識を高めるとともに、今後の効果的な地震防災や対策を検討する上での基礎資料として活用ください。

表1 奈良県に影響があると考えられる活断層

断層帯名 (起震断層/活動区間)	長期評価で予想した地震規模 (マグニチュード)	活断層における相対的評価		地震発生確率 30年以内
		ランク	色	
奈良盆地東縁断層帯	7.4程度	S*ランク	赤	ほぼ0%～5%
中央構造線断層帯 (金剛山地東縁区間)	6.8程度	Zランク	黒	ほぼ0%
中央構造線断層帯 (五条谷区間)	7.3程度	Xランク	白	不明
中央構造線断層帯 (根来区間)	7.2程度	Aランク	黄	0.007%～0.3%
生駒断層帯	7.0～7.5程度	Aランク	黄	ほぼ0%～0.2%
木津川断層帯	7.3程度	Zランク	黒	ほぼ0%

<活断層における相対的評価の凡例>

色	ランク	解説
赤	Sランク(高い)	30年以内の地震発生確率が3%以上
黄	Aランク(やや高い)	30年以内の地震発生確率が0.1～3%
黒	Zランク(-)	30年以内の地震発生確率が0.1%未満
白	Xランク(-)	地震発生確率が不明(すぐに地震がおこることが否定できない)

地震後経過率が0.7以上である活断層については、ランクに*を付記する

表2 南海トラフの地震

長期評価で予想した地震規模 (マグニチュード)	地震発生確率			地震後経過率
	10年以内	30年以内	50年以内	
8～9クラス	30%程度	70～80%	90%程度もしくはそれ以上	0.82